



無機的ファサード



有機的ファサード



Before



After

Design Concept

「無機的」と「有機的」を2つのファサードで切り替え、2面性を持つ街角の力をデザインに表現した集合住宅。都会の風景と暮らしの空間を明解に切り替えるデザインを外観だけでなく植栽、エントランスなどのディテールにも取り込み、「生活に便利でファッション・文化の発信地につながる場所」と「正面に立体交差が迫る幹線道路沿い」という、この立地ならではのプラスとマイナス両要素を印象的に融合することで、都会に住まう楽しさをユーザーに伝えながら、都市における街角の景観を整えた。



IKEJIRI-ŌHASHI

施主：株式会社トーションパートナーズ
デザイン：株式会社イクス・アーク都市設計

Project Concept

環状6号線(山手通り)と池尻大橋駅にける生活道路。この全く異なる2本の道が出会う角地に、「無機的」と「有機的」という2つのファサードを持つ集合住宅を設計した。正面に立体交差が迫る山手通り側はコンクリートのアウトフレームで各戸内のプライバシーを保護しつつ、バルコニーの一部に暖色の塗装を施して前を通る歩行者が下から見上げたときには無機的な壁面にも温かみを感じられるよう工夫した。また生活道路側は6色13層のタイルで有機的な地層を表現。遠景では薄く、近景ではタイルの影で色が濃く見え、こちらも目線の違いで景観が変化する。この切り替わる2つの壁で、2本の道の接点となる印象的な「街角」をデザインした。



Planning Features

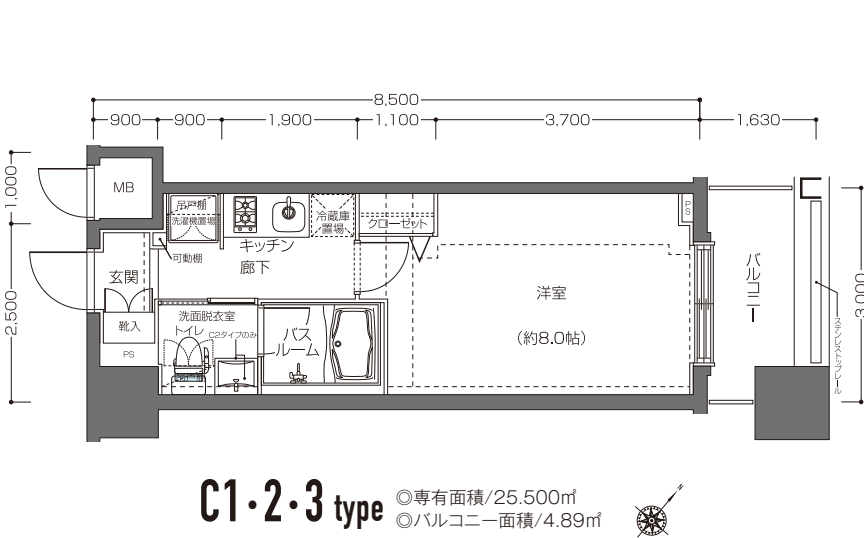
2面の道路をヒューマンレベルで考えた「見せる植栽」と「感じる植栽」

都会に暮らすことの付加価値を求めるユーザーの満足感と、地域社会に美観と活性をもたらす公共性の両方を満たすため、「デザイン」を重要な要素とした集合住宅を提供している。植栽へのこだわりもそのひとつ。本敷地の周辺は、夕刻は特に近隣のスーパーマーケットを利用する人の往来が多くなる。そこで歩行者が妻壁直近を通る生活道路側の植栽は目線を透かす株立てのナツツバキで閉塞感をなくし、足元にタイムやローズマリーなど香る地被類を植えた。一方、広い歩道がある山手通り側にはボリューム感あるソヨゴやコニファーを植えて立体交差の圧迫感に負けないようにし、地被類はアカバトキマンサクやペニシダなどを植えて彩りを添えた。またバルコニー面を近景で見上げたとき無機質なコンクリート壁の中にも暖かい差し色を感じられるよう手摺笠木下面をイエローオーカーに塗装し、足元のカラーリフとあわせてヒューマンレベルでの息抜き効果を狙った。

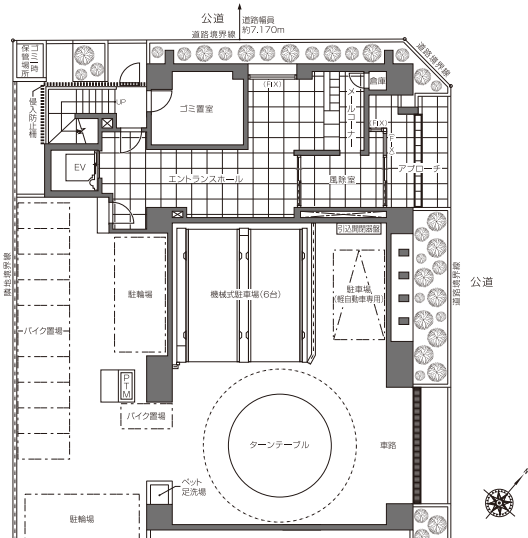


Interior Design

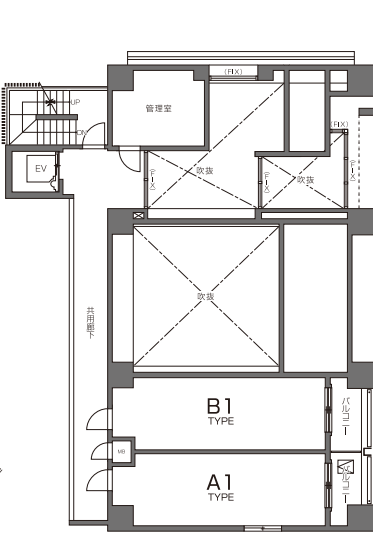
有機的・無機的のコンセプトはインテリアカースキームへ継承。レアウトのレオ材の床にイエローオーカーのキッチン等、温かみを持ったスキームとホワイトonホワイトやブラック&ホワイトのクールなカースキームを考えた。



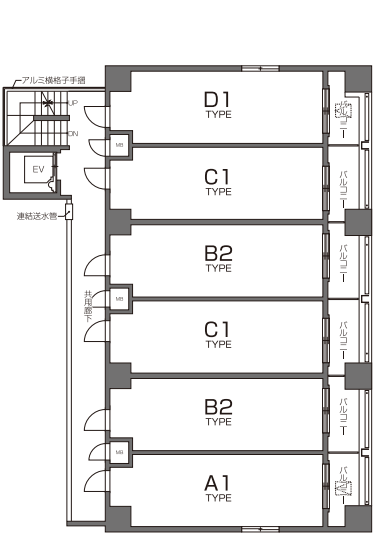
C1・2・3 type



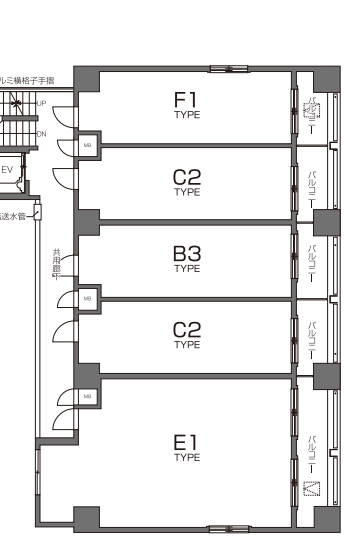
FLOOR PLAN/1F



FLOOR PLAN/2F



FLOOR PLAN/3F-4F



FLOOR PLAN/5F~12F

